

活動報告

2012 年度

●総会

2012 年 12 月 1 日 (土) 日仏会館 501 会議室

●シンポジウム・講演会 2012 年 12 月 1 日 (土)

日仏会館 501 号会議室

テーマ：「錬肉工房『女中たち』上演の軌跡」

講演者：岡本章

●刊行物ほか

「コレクション 現代フランス語圏演劇」

04. Ph. ミンヤナ／N.ルノード『亡者の家／プロムナード』

10. J. ポムラ『時の商人／うちの子は』

09. K. クワユレ『ザット・オールド・ブラック・マジック／ブルー・ス・キャット』

16. E. ダルレ『隠れ家／火曜日はスーパーへ』

08. J-L. ラガルス『まさに世界の終り／忘却の前の最後の後悔』

03. H. シクスー『偽証の都市、あるいは復讐の女神たちの甦り』

15. F. メルキオ『ブリ・ミロ／セックスは心の病にして時間とエネルギーの無駄』

会報 復刊 03 号 (2012 年 11 月 30 日発行)

【お知らせ】

会員の堀切克洋氏が、「翻訳 (不) 可能な文化をめぐる旅——ジャン＝ミシェル・ブリュイエル『たった一人の中庭』——」で、第 17 回シアターアーツ大賞を受賞されました。シアターアーツ賞の大賞は実に 8 年ぶりということ。心よりお祝いを申し上げます。

フランス語圏演劇に関する催しの情報をお寄せください

当会 HP (<http://www.sfjt.jp.org>) では、日本でのフランス語圏の舞台芸術に関する各種催しに関する情報を掲載しています。フランス語圏からの来日公演、フランス語で書かれた作品の翻訳・翻案による公演のほか、フランス語圏演劇に関する講演や研究会など、日仏演劇協会以外の団体・個人が主催する催しが対象です。メーリングリストによる配信も行っています。ML 配信・HP 掲載を希望される方は、(1) 件名を「関連イベント掲載依頼」として、(2) メール配信用に、そのまま配信できる文面 (テキスト形式) を事務局 (office@sfjt.sakura.ne.jp) までお送りください。その際、必ず問合せ先を明記してください。いただいた情報は、基本的に HP の「関連情報」ページに掲載いたします。講演名/公演名等、日時、会場、URL 等の情報のほか、添付ファイル等へのリンクも可能です。

編集後記

「四月は残酷な季節で」と歌ったのは T.S.エリオットだった、それとも、『荒地』はまるで違う出だしだったか、どっちにしろ、大学にいたとき、それは当たっていた。でも、引退したのに、とりわけ今年にはわたしにはその感が強い。ひとつには次々に舞いこむ訃報ゆえ。ほかはともかく、梅本洋一さんのそれにはがっくりきた。かつてこの会報を編集した三名のひとり、かれの力は大きかった。謹んで黙祷。諸氏もご自愛を。そして、これは事務局長として書いておいたほうがいいだろう、「コレクション・フランス語圏演劇」が最終局面を迎えて喘いでいる。なかなか訳が出てこないのだ。不測も不測、わたしはじりじり焦がされていく心境、老いたとはいえ、無間地獄にはまだ早いのだ、たまたま、いい加減にしろ!! それはともかく、会報もやっと三号雑誌の域を越えた。依頼したものの頂けなかった原稿もあり、その点は残念だが、これだけは朗報。以後もこの持続を願う。日仏演劇協会も、先述のわが愚痴のごとく、組織ががたがたしているのかもしれない、さりながら、会長の稿にある前史を継いで、会員諸氏、全力を出して頂きたいと思う。事務局長がいつまでもつかはもはや自分でもわからないが、異国の演劇との関係性総体の研究を、たとえば「国際演劇協会」の年報のようなレベル、東京の業界でいま流行りの国際交流は顔面のみ、そんな情報装置にわたしはしたくはない、絶対に。沢山の書物が贈呈される齢になり、頂いた本を読む機会も多々、啓発されることが依然莫大にある身だが、つい先頃思ったことを留保として口走れば、あまり「ボーダーレス」といわないほうがいいと思う。各現場にボーダーがあるから面白いのだし、差異がないなどはいまや予算獲得の絶好命題、どれだけの文献を読もうと、どれだけの舞台を観ようが、風潮にすぎない、そんなご時世。わたしはそういう書や芝居になるほど色々教わるけれども、若干危惧を覚える。異なりがあったうえで、「小さく」とも、この協会にしようと考えている。小さな現場を担えない者にでかいことができるはずはないのだから、と、これはなんの当てこすりでもない、つねにわが身に聞かせ、自戒にしている身構え。そういう協働が梅本洋一とはできたのだと、過去を振りかえるつもりもさらさらない、若すぎだとの嘆息はあれ、個々はひとりだ、いつも、そこで組むのだ、なにごとかのため、それを忘れまい。

(佐伯隆幸)